

うきたむ

第61号

2023.7.15

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238 - 52 - 2585
FAX 0238 - 52 - 4665
URL <http://ukitamu.pupu.jp/>



▲歴史公園の見学

（ようこそ）

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館へ

うきたむ風土記の丘考古資料館事務職員 木村 由紀子

考古資料館では、たくさんの方の体験型イベントを行っております。

新緑の薫り漂うゴールデンウィークに、最も多くの方にご参加いただいております「赤ちゃんの手形を作ろう」が開催されました。今年は、九日間で六七三個のかわいい手形足形が集まりました。そして子ども日には、なんと、生後十日目の赤ちゃんも来てくれました。最年少の記録更新です。笑い声や、時には元氣な泣き声もあるにぎやかな時間は、微笑ましい限りでした。ご家族の記念としても楽しんでいただけたと思います。来年もご参加お待ちしております。

六月になると、修学旅行や社会科見学の 일환として、主に小学生が来館します。常設展示室の中央には、当時の生活の様子がわかる押出遺跡の復元家屋があり、重要文化財に指定された遺物も展示しております。解説付きで、より理解も深まると思います。公園内にも復元した竪穴住居があり、昔の暮らしを散策している気分になります。

弓矢射ち体験や、火起こし体験も盛り上がりがあります。何千年も前の技術や生き抜く術を、見て聴いて体験することは貴重なことです。歴史をもっと学びたいと思うきっかけになればと願っています。

当館では、他にも体験学習があります。「ガラス玉をつくろう」「コースターをつくろう」「古代風ブレスレットを作ろう」は、女性やお子さまに人気があります。「塩引き鮭をつくろう」は、お正月の一品としていかがでしょうか。講師をお招きしての講演会もあります。県内外の遺跡をめぐる研修会も参加をお待ちしております。お子さまから大人の方まで、どの年代の方も楽しんでいただける生涯学習の場として、実物も見ることができうきたむ風土記の丘考古資料館です。

特別テーマ展

「高瀬山の考古学Ⅱ 弥生時代から中世」

令和5年6月10日(土)～9月3日(日)

膨大な面積の発掘調査が行われた高瀬山遺跡で

は旧石器時代から中世までの遺構や遺物が検出されています。昨年は「高瀬山の考古学Ⅰ―旧石器時代・縄文時代―」として、三・四八の石器や土器などを展示しました。今回の「高瀬山の考古学Ⅱ―弥生時代から中世―」は六章構成とし全部で三一九の土器や陶磁器、木製品・鉄製品・土

製品・石製品等を展示しています。

序章では高瀬山遺跡の調査経過と各調査区の位置を表と図を使って説明しています。

第1章「弥生・古墳時代の高瀬山」では、1期地区で出土した高瀬山遺跡の中で唯一の、弥生時代中期の一本線で文様を描く土器を展示しています。古墳時代では、1期、H O、寒河江市教委調査のチェリークアパーク地区の捨て場や竪穴住居跡、土坑から出土した前期の土器を展示しています。高坏や器台、壺、甕、甗などがあります。

第2章「奈良時代の高瀬山」では、奈良時代を遡る可能性のある、高瀬



▲奈良時代の土師器

山の歴史時代ではもっとも古い高瀬山K遺跡から出土した土器を、続いて1期とSA区の竪穴住居跡の八世紀第三四半期の竪穴住居跡から出土した土器を展示しています。

八世紀第四四半期では1期、2期、SA調査区の竪穴住居跡の土器を展示しています。

第3章「平安時代の高瀬山」では2期、SA区の九世紀第一四半期の竪穴住居跡の土器を、続く第2・3四半期ではH O区及び2期の竪穴住居から出土した土器を展示しています。

第4章「高瀬山の墨書・刻書土器」では、高瀬山遺跡から出土した奈良平安時代の墨書土器、刻書土器を展示しています。

第5章「高瀬山の瓦・陶硯・金属製品・砥石等」では高瀬山遺跡から出土した瓦、陶硯、紡錘車、鉄製品、砥石を展示しています。

第6章「高瀬山の木製品・中世陶磁・かわらけ等」では、高瀬山遺跡から出土した奈良時代から中世の木製品、中世の陶磁器やかわらけを展示しています。

催し物のご案内

今後の催し物です。興味のあるものがございましたら、お問い合わせください。

◇第31回企画展

9月9日(土)～12月3日(日)

◇第25期考古学セミナー

9月24日・10月1日・8日(日)

◇秋の遺跡めぐり

10月22日(日)

◇勾玉・弓矢・石器をつくらう!

11月3日(祝)

◇企画展記念講演会

11月12日(日)

◇ガラス玉をつくらう!

11月25日(土)

◇コースター・プレスレットをつくらう!

12月2日(土)

◇大人の自由研究②

11月26日・12月3日・10日(日)

第31回企画展

「山形県内の指定文化財

— 考古資料 —

令和5年9月9日(土)～12月3日(日)

山形県内の出土品で国宝・重要文化財、山形県・市町村指定となっている有形文化財(考古資料)を展示します。

主な展示品は次のとおりです。

旧石器時代では東山遺跡出土品(新庄市指定)、乱馬堂遺跡出土品(新庄市指定)。

縄文時代前期では一ノ坂遺跡出土遺物(米沢市指定)、彩漆土器附彩漆土器残欠(重要文化財・国所有)、山形県押出遺跡出土品(重要文化財・山形県所有)。

縄文時代中期では土偶(国宝・山形県所有のレプリカ「縄文の女神」)、山形県水木田遺跡出土品

(重要文化財・山形県所有(当館保管))、注口土器(県指定・大蔵村白須賀遺跡出土 山形大学所有)、橋上遺跡出土大珠(大江町指定)。

縄文時代後期では人体装飾付土器(県指定・山形県所有)、竹井境土偶(米沢市指定)。

縄文時代晩期では土偶

(釜淵字五郎前出土 重要文化財・山形県立博物館のレプリカ)、硬玉類(県指定・致道博物館所有・寄託)、宮内遺跡出土品(新庄市指定)、黒森堀割基盤層発掘石器土器(酒田市指定)。

弥生時代では弥生式土器(県指定・大蔵村上竹野遺跡出土 接引寺所有・新庄市ふるさと歴史センター寄託・展示中)、弥生土器(県指定・大蔵村上竹野遺跡出土 山形大学所有)、生石2遺跡出土弥生土器(県指定・

山形県所有)、石田遺跡出土弥生土器(寒河江市指定)

山形県所有)、古墳時代では菅沢2号墳出土埴輪(県指定・山形市所有(10月から)、お花山古墳出土品(県指定・山形県指定)、上柳渡戸八幡山出土品(県指定・山形大学所有)、八幡堂遺跡出土紡錘車・紡錘杵・火鑽白(米沢市指定)

奈良時代では円面硯(米沢市西町田下遺跡出土 山形県所有(当館展示))、漆紙文書(大浦B遺跡出土 米沢市指定(写真展示))、蕨手刀(酒田市指定)

平安時代では俵田遺跡祭祀遺構出土品附木製品残欠一括(県指定・山形県所有)、古志田東遺跡出土木製品類(米沢市指定)、城輪柵跡出土品(酒田市指定)、堂の前遺跡出土土斗、肘木、田下駄、

壺(酒田市指定)、篋描字瓦(酒田市指定)、高瀬山経塚出土品(寒河江市指定)

鎌倉時代では中世陶器(執行坂窯跡出土 鶴岡市指定)、高野坊遺跡出土墨書礫(天童市指定)、中世陶器壺・十文字叩壺(楯ノ腰経塚出土 酒田市指定)

室町時代では、大南遺跡出土木製品(米沢市指定)を展示予定です。

普段展示されることのない指定文化財の展示となりますので、皆様ぜひご来館ください。



▲展示予定
押出遺跡彩漆土器

東正寺

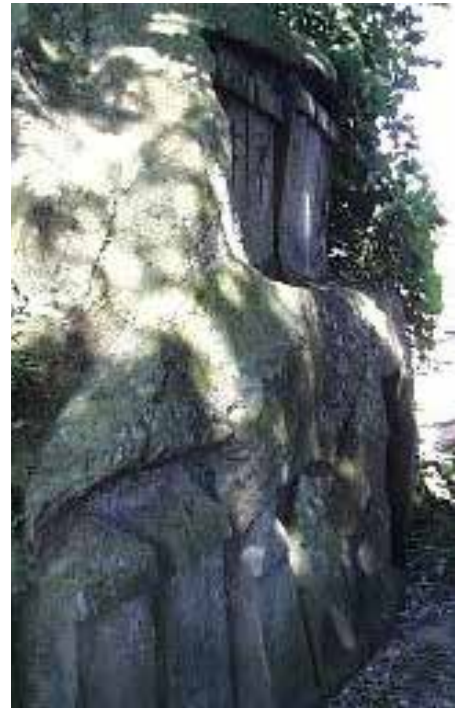
南陽市赤湯 ● 創建 延元三年 (一一三八)

今回は、置賜三十三観音の一つでもある、東正寺とその境内にある板碑についてご紹介いたします。

湯新山東正寺は、曹洞宗の寺院であり南陽市の烏帽子山公園の近くに所在しています。境内に祀られている観音菩薩像は、赤湯聖観音と呼ばれ、慈覚大師円仁の作と伝えられています。始めは会津の若松山頂に祀られていたものを、元禄年間(二六八―一七〇四)に川西町の地主である、佐藤作兵衛という人物が自宅の敷地内に祀り、深く信奉したものと伝えられています。その為別名を作兵衛観音ともいいます。東正寺で祀られるようになったのは、明治



▲永仁二年磨崖板碑 (上段)



▲永仁二年磨崖板碑 (全景)

二十五年(一一八九二)のことと伝えられています。

この寺院の境内に、磨崖板碑があります。切り立った急な崖に彫られたもので、全部で十五基ありますが、特に有名なのは、県指定文化財にもなっている、永仁二年の磨崖板碑五基です。永仁二年(一一九四)というのは、鎌倉時代の長井氏が置賜地方を治めていた時期になります。横に五つ並ぶ形で配置されており、左二基にはそれぞれ、「右造立者、逆修志也、為往生浄土」「右志者為、永仁二甲午、父幽儀也」と彫られており、右三基は阿弥陀三尊の形を取り、中央(阿弥陀如来)は「永仁二甲午秋天」、左右に「件志者、

為悲母幽儀第三年」と刻まれ、右側(観音菩薩)は「右志者、為平吉宗聖霊、孝子敬白」、左側(勢至菩薩)は「右塔婆者、為逆修善根、現当三世之也」と刻まれています。このことから、平吉宗という人物と父母の供養の為に建立され、生前供養と死後の極楽往生を願って作られたことがわかります。板碑の形状として、頭部は鋭利な山形になっており、額部に二条の線が入り、その下に種字を葉研彫りで彫っています。更にその下に願文と紀年銘が刻まれています。極めて状態も良く、また崖に彫られた板碑という例は県内でも少なく、大変貴重な資料となっております。

我が館の展示品 (49)

百刈田遺跡の土器

弥生時代中期 ● 南陽市 百刈田遺跡

南陽市にある百刈田遺跡は、南陽市内を流れる吉野川・織機川により形成された自然堤防上にあります。この遺跡からは、弥生時代の土器がまともに出土し、弥生時代中期のお墓の跡と考えられます。

弥生時代には、木製の棺である木棺に遺体を納めて埋葬した「木棺墓」や、土を掘って遺体を埋める「土坑墓」などのお墓が見つかっています。百刈田遺跡で見つかった土器は、土坑墓に供えられた土器と考えられます。土器には、渦文や縄文などの模様が施されたものがあります。

百刈田遺跡からは水田の跡は見つかっていませんが、その地形条件から、周辺で米づくりが行われていた可能性が高いと考えられています。見つかった土器の中には、粉跡の残るものもあります。これらの土器は、常設展示されていますので、ぜひご覧ください。



▲百刈田遺跡の土器